

出水城（亀ヶ城）跡 探検会



出水城（亀ヶ城）跡[右側の森林部分]と出水麓伝統的建造物群保存地区

《とき》 平成27年1月17日（土）午前9時～正午

《ところ》 出水市麓町 出水城（亀ヶ城）跡 [市指定史跡]

出水市教育委員会生涯学習課

探検会会場図



出水市麓町付近

縮尺 1 / 3,000 | 90m

1 『中世山城』とは？

中世山城とは、いわゆる「中世（鎌倉～戦国時代）」と区分される、特定の時期にのみ全国的に普及した、山頂や山腹などの自然地形を利用した戦闘的施設で、その後は近世の人工的施設である「(天守閣を持つなどの)城郭」へと変遷し、権力者の象徴的・政治的施設として続きます。

中世山城は自然地形を利用した立地特性から、山頂部や丘陵部を切り開いて平坦地を造り、隣り合う平坦地どうしは谷地形や人工的に造られた堀や空堀で区切られています。この平坦地が「曲輪（くるわ、「廓」とも表記します）」で、この曲輪内に戦闘指揮所や武器・食糧倉庫などの施設を建て、非常時にはここで生活し、戦闘に備えていました。

そして、この曲輪と曲輪どうしを区切る堀などを一つのセットとした複数の曲輪やその他の山城遺構の集合体を中世山城と呼びます。

2 出水市の中世山城

現在、市内には 24 箇所の中世山城跡が確認されています。このうち市指定史跡は、「亀井山城（本城跡）」のほか、麓町の「城山（花見ヶ城・亀ヶ城）」、高尾野町の「木牟礼城跡」と「紅葉城跡」の 4 史跡です。

これらの中世山城跡は、遺構が良好に残っていても、その立地状況や環境・管理状況等によっては雑草・雑木等が繁茂して、大事な遺構を隠してしまい人目に付きにくくなっていることが多くみられるようです。最悪の場合、山城遺構の存在が忘れられてしまい、その結果、知らない間に工事などにより遺構が消えてしまうことが心配されます。



麓町の城山（花見ヶ城・亀ヶ城）

（※中世山城としての名称は出水城跡）

3 出水城（亀ヶ城）関係 年表（『出水市郷土誌』より）

	時代	西暦	郷土のできごと	主な出来事
中 世	鎌倉時代	1190～1199年	和泉兼保が亀ヶ城を築いて本拠地とする	鎌倉幕府成立
	南北朝時代	1336～1392年	島津忠氏（島津和泉氏）が伴系和泉氏に代わり亀ヶ城に入る	足利義満が3代室町幕府將軍となる
	室町時代	1453年	島津用久が薩州家を興し亀ヶ城に入る	応仁の乱
	戦国時代	1565年	6代当主島津義虎が野田城主島津忠兼を出水城で謀殺する	鉄砲伝来
1587年 4月27日		豊臣秀吉が征西途中、出水城に立ち寄る		
近 世	安土桃山時代	1593年	薩州家改易により出水城主不在となる	朝鮮出兵
	江戸時代		出水麓が作られ政治の中心地となる	江戸幕府成立

4 中世山城の用語

切岸（きりぎし）…曲輪の周りの斜面を人工的に急にして登りにくくすること。
曲輪以外にも作られている場合もある。

空堀（からぼり）…尾根の鞍部や曲輪を掘り切って、尾根伝いや隣接する曲輪から敵の進入を防ぐために造られた。水の無い空堀が一般的。

土塁（どるい）…曲輪の周囲に、空堀を掘った時の土などを利用して、線・帯状に盛って空堀や切岸とセットとなって曲輪を防御するもの。

虎口（こぐち）…曲輪の出入り口。戦国時代になると敵の進入を防ぐため、枡形虎口や喰違虎口など様々な形が生み出された。

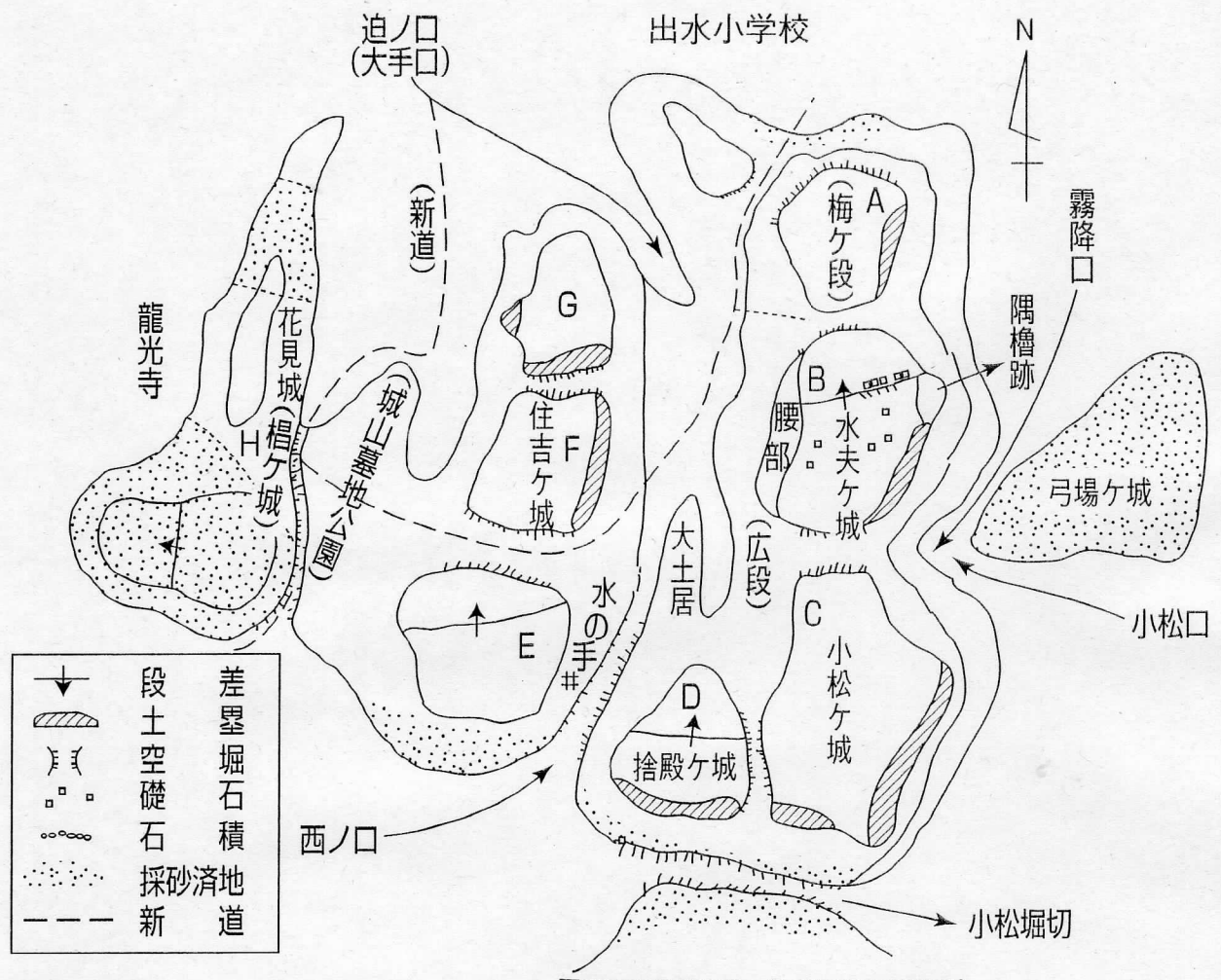


図4—22 出水城見取図 (『出水郷土誌』上巻)